

名古屋東部丘陵生態系ネットワーク形成 ロードマップ

現状と課題

自然環境

- ・砂礫層に覆われた傾斜の緩やかな丘陵地
- ・ため池
- ・管理が行われていない雑木林
- ・拡大する竹林
- ・丘陵地に点在する湧水湿地
- ・自然が残る河川
- ・低地の水田

社会的状況

- ・多くの大学や公的な施設の分布
- ・自然の拠点となっている公園・緑地の分布
- ・活発な自然を守る活動
- ・愛知万博の開催地域
- ・都市化の進行
- ・高速道路をはじめとする道路の整備

シンボルとなる生物

- ・シデコブシ
- ・ギフチョウ
- ・ハッチョウトンボ

課題

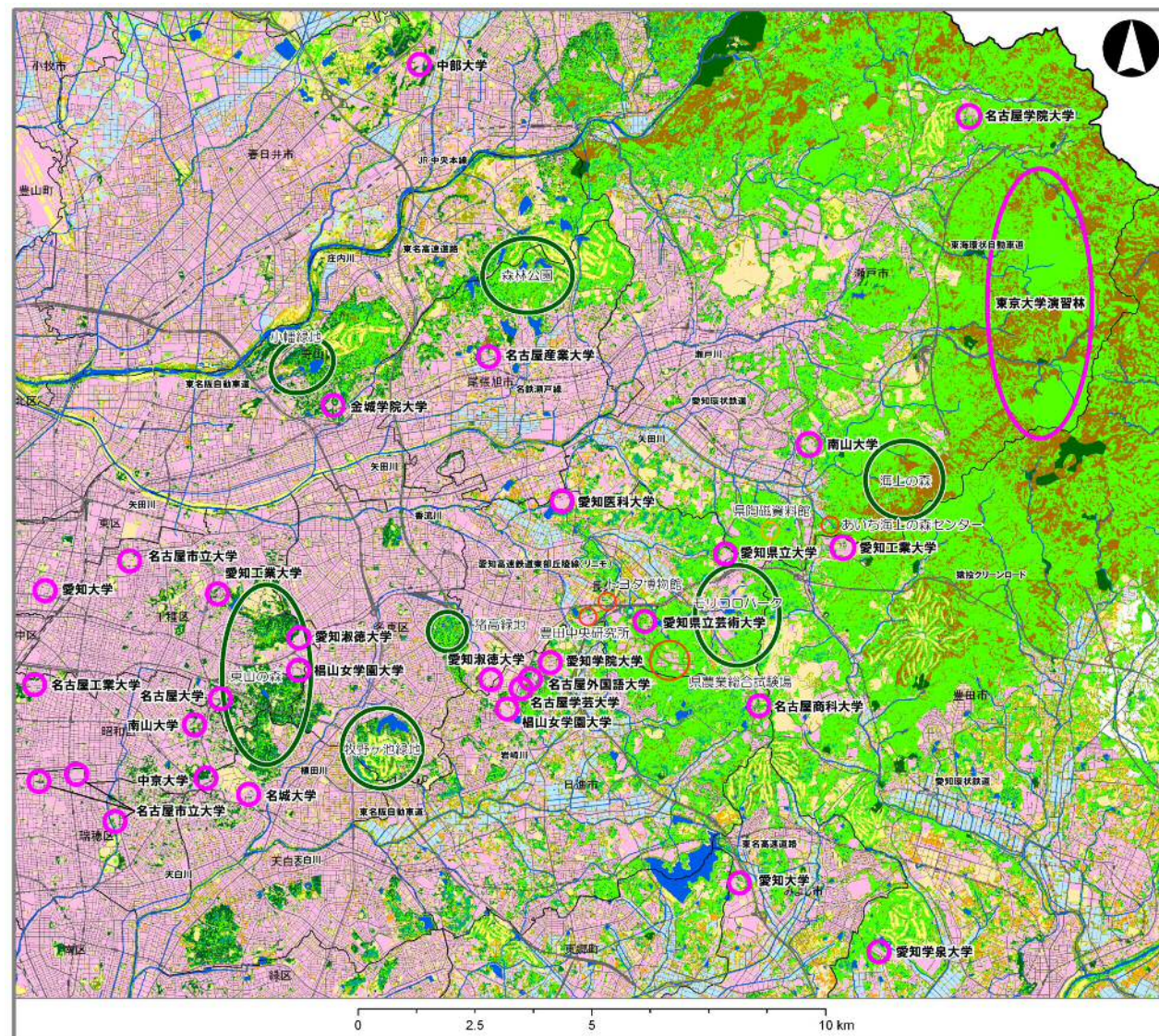
- ・宅地や道路などによる生物生息空間の分断・孤立化
- ・開発による生物生息空間の消失
- ・里山環境の変化
- ・外来種の増加
- ・害虫による樹木の枯死
- ・子どもたちが身近に触れることのできる自然の減少
- ・身近な自然や生物への関心の低下

目標

23 大学が先導する、ギフチョウやトンボの舞うまちづくり

名古屋東部丘陵は、都市から里山までつながる地域です。多くの人暮らし、働き、学ぶ場であると同時に、里山やため池、湿地、川などの自然が残され、そこではシデコブシやギフチョウ、ハッチョウトンボ、ムササビなどの多様なふるさとの生きものが命をつむいでいます。

この地にある大学が中心となって、住民、企業、自治体と協力しながら、自然をつないでいきます。これにより、身近にふるさとの生きものとふれあうことができ、ふるさとの原風景が残された、心豊かに暮らせるまちをつくっていきます。



実現に向けた取り組み

名古屋東部丘陵生態系ネットワーク協議会の設置

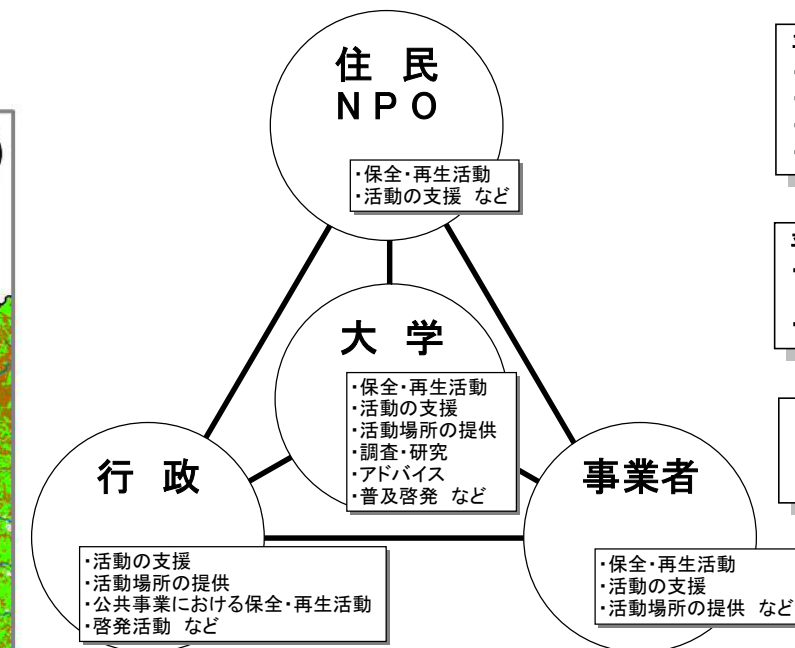
★役割：計画検討、普及（シンポなど）、事業実施に向けた調整、成果検証

【大 学】愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、金城学院大学、椋山女学園大学、中京大学、中部大学、東京大学演習林生態水文学研究所、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋工業大学、名古屋産業大学、名古屋商科大学、名古屋市立大学、名古屋大学、南山大学、名城大学

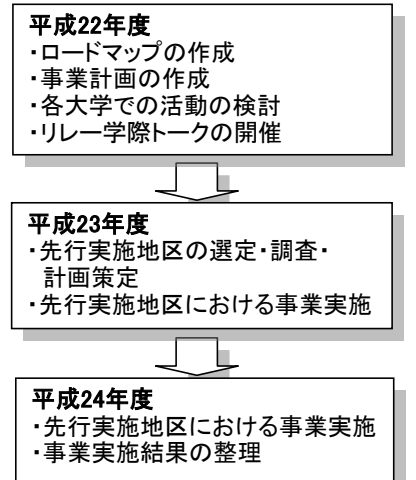
【事業者】国際ロータリー第 2760 地区環境保全委員会、三五コーポレーション(株)、生活協同組合コープあいち、大日本印刷(株)、東邦ガス(株)

【自治体】名古屋市、瀬戸市、春日井市、豊田市、尾張旭市、日進市、みよし市、長久手市、豊明市、東郷町、愛知県

各主体の役割



実施の手順



●生態系ネットワーク形成方法

- ・ため池の生物生息空間としての価値の向上
- ・学校や公共施設敷地での池や樹林の再生
- ・道路や河川沿いへの生物生息空間再生による回廊の創出
- ・住宅地での植樹による回廊の創出
- ・農地における生物生息空間の再生
- ・都市化が進んだ場所での屋上などを活用した生物生息空間の再生
- ・分断された生物生息空間のネットワーク
- ・里山の保全と生物生息空間としての質の向上

- ・多様な人や組織の協働による自然を守る活動の更なる充実
- ・森と緑づくり税の活用による事業の推進
- ・大学による先導的取り組みや、調査研究、地域の指導・普及啓発など